

えがお



令和4年度
No.2
7月22日

伊那市
よりよい
教育環境
推進連絡会

今回の「えがお」は、地域と学校が連携して取り組む活動として、高遠中、富県小、春富中の活動と、手良公民館で開催された人権同和教育講座の様子を紹介いたします。

高遠中学校「親子ふれあい講座」

六月二十四日（火）、高遠中学校で、コロナ禍で実施できなかった「親子ふれあい講座」が、三年ぶりに開かれました。地域の人材を招き、全校生徒が七つの講座に分かれて、親子でいっしょに楽しく交流しながら活動しました。それでは、七つの講座の内容や様子を紹介していきます。



『歩き方講座・靴について』
【講師：東屋靴店 米山 洋子 さん】
体を動かす場面とお話を聞く場面があり、正しい歩き方や重心が全部きちんとできるようにすること、靴のことなどのお話を楽しくしていただきました。



『桜守のお話』
【講師：稲邊 謙次郎 さん】
「桜守の仕事の半分は、観察である。よく見て、葉をかけずに虫を手で取り、少し残すと、鳥が来る。」静かに語られる稲邊さんのお話を、傾きながら親子で聞き入っている様子がありました。



『高遠焼』【講師：浦野 真吾 さん】
講師の先生のお話を真剣に聞き、親子で協力して、丁寧に美しく陶芸作品を完成させていきました。



『花の栽培（アルストロメリア）』
【講師：西村 邦明 さん】
お話を聞いた後、親子で素敵なフラワーアレンジメントの作品を作りました。



『高遠そば』
【講師：飯島 進 さん】
高遠と会津とのつながり、「2017 ジャパンウイークインチェコ」での高遠そばの紹介など、国内・国外と関係を持つ高遠そばのすばらしさも知ることができました。

六月二十七日（月）、富県小学校四年生の皆さん十四名と富県保育園の年中さん十八名が、「貝沼の自然を守る会」八名の皆さんといっしょに小麦の収穫をおこないました。この小麦は、昨年度それぞれ、三年生・年少さんの時にいっしょに種まきをおこなったものだそうです。

富県小学校「小麦の収穫」



この「親子ふれあい講座」は多くの保護者が学校に足を運び親子間や地域の方との関係を深めるだけでなく、キャリア教育の視点から職業や地域貢献を考えるきっかけとなったり、自分が住む地域に素晴らしい講師の皆さんがいるのを知り、地域を誇りに思う気持ちを育むことにつながったりするといふ多くの大切な意味を持ったすばらしい取り組みであると思われました。地域講師の皆様、高遠中学校の生徒・保護者の皆さん、先生方、ありがとうございました。



『ケーキ作り』
【講師：菓匠 Shimizu 清水 慎一 さん】
ケーキにのせる色とりどりの飾りを制作する細かな作業に粘り強く丁寧に取り組んでいて、楽しい中にも真剣で緊張感のある会場の雰囲気を感じました。



『高遠まんじゅう』
【講師：赤羽菓子店 赤羽 敏 さん】
機械ではできない職人技も紹介していただき、その技に親子で挑戦しました。



「貝沼の自然を守る会」の皆さんの指導を受けながら、小麦の束を作ります。この経験が来年度の稲作でもいかされるとのことです。



たいへん暑い中でしたが、一生懸命に刈り取り作業に頑張る4年生の皆さんの姿でした！

この日は、「守る会」の皆さんに、児童・園児の活動を支えていただき、四年生が刈り取りをして束にして縛り、年中さんは麦の束を「はぞかけ」するお手伝いをしました。
小麦は四日ほど乾燥させ、脱穀・製粉をしていますが、できた小麦粉で何を作るかはこれからみんなで相談するようです。刈り取り作業をしている子どもたちに、何を作りたいか聞いてみると「ピザ！」という元気な答えが返ってきました。
収穫した小麦は、「ハナマンテン」という品種ですが、調べてみると「ハナマンテン」は、長野県で平成十六年に育成されたグルテンが強い品種で、パン屋・ラーメン店・うどん店・ピザ店などに人気の高い品種だそうです。ピザづくりには、もってこいですね。



小麦の束を「おとなりのへ ♪」と歌いながら渡していく年中さん。最後に守る会の会長さんに渡して、はぞかけをしてもらいます。

富県小学校では、この活動を十年くらいやっており、四年生と年中さんが、この後も交流を続け、四年生が六年生になったとき、年中さんが入学して、学校に来たら麦を通して交流したお兄さんお姉さんがいるので、安心して小学校生活をスタートさせることができるといった配慮もあるとのこと。守る会の皆さん、四年生・年中の皆さん、先生方、ありがとうございます。これからも楽しく交流を続けていってくださいね。

春富中学校 「地区奉仕活動」



六月二十八日（火）、春富中学校では、いつもお世話になっている自分の地区をきれいにし、地区への感謝の気持ちを表す目的で、今年度第一回目地区奉仕活動が行われました。生徒の皆さんは、自分の地区の公民館、神社、駅、地下道など、二十数ヶ所に分かれ、施設の清掃や除草作業、ごみ拾いなどをおこないました。

梅雨明けの厳しい暑さの中でしたが、しっかりと作業に取り組む姿が素晴らしく、元気なあいさつや作業の質問に対してのハキハキとした応対にも感心しました。皆さん、お疲れさまでした。第二回は十月四日（火）を予定しています。



原新田公民館周辺での草取り作業。厳しい暑さの中でしたので、熱中症に気を付けながら、作業をしました。



下殿島公民館の清掃の様子です。近くのゲートボール場の草取りと、2グループに分かれての作業でした。

手良公民館人権同和教育講座 「笑顔からはじまる人権 ～みんなちがって、みんないい～」

手良公民館の人権同和教育講座が、講師に伊那市人権擁護委員協議会会長の原宏先生をお迎えして、七月二日（土）に手良公民館（てらとびあ）で開かれました。

最初は、原先生の自己紹介やジャンケンゲームなどで、楽しく心と体を柔らかくしてから、私たちがこれまで生きてきた中で、知らず知らず刷り込まれてしまった感じ方や考え方について、様々な資料を使いながら、実感させていただきました。無意識のうち勝とうとしていること、その役割は男性が務めることが普通という常識、差別するつもりはない



エネルギッシュでありながらも、聞く人の気持ちに寄り添った温かな言葉でのお話でした。



会場は、笑顔につつまれ、リラックスした雰囲気、原先生のお話を「なるほど!」と聞いている皆さんでした。

けれど、それを聞いたときに違和感や心配や恐れを感じてしまうこと、一方からしか見ていないことなど、様々なことを当たり前だと思ってしまう自分気づかされました。

また、自分の「ものさし」で、人を評価してしまいがち、相手をいやな気持ちにさせてしまったり、人間関係を崩してしまったりする事例もいろいろ紹介していただき、「人の数だけ普通がある。」「みんなちがって、みんないい!」という心で、周りの人たちと接していきけるようにしたいというお話でした。お話を聞いて、時々ちよつと立ち止まったり、振り返ったりしながら、考え方を確かめてみるようにしたいなあと思えました。

講演会の後、「手良太鼓」の演奏があり、コロナ禍でも、頑張つて活動してきた成果を存分に発表



講演後に、地元の小中学生による太鼓演奏（手良太鼓）が行われました。会場に迫力ある太鼓の音が響きわたりました。

人権の話となると何だか堅苦しいイメージをもつてしまいがちですが、終始和やかな雰囲気の中で、あつという間に時間がたつてしまったという印象でした。原先生の講演は、今後、十一月に東春近公民館、一月に長谷公民館で予定されています。ぜひ大勢の皆様にお出かけいただきたいと思えます。

一学期が終了し、夏休みに入ります。

市内の小中学校では、間もなく一学期が終了します。新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、計画していた行事も無事に行われたようです。夏休みには、交通事故や水の事故、熱中症などに十分注意し、元気で充実したお休みになるように願っています。

編集後記



今回の「えがお」では、三つの学校の活動を紹介しました。それぞれ、学校・地域の特徴を生かした実践で、児童・生徒の皆さんが前向きに取り組んでいる様子がわかりました。伊那市の他の学校でも、これから様々な活動が行われると思います。もし、「こんな活動があるけれど、」という情報がありましたら、伊那市生涯学習課までご連絡ください。暑い日が続きますが、皆さま、お元気で過ごしてください。